

三つの柱と対話で育む、 岡崎製作所の人づくり

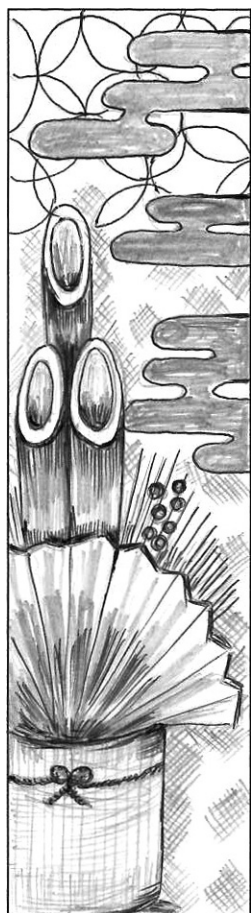
三菱自動車工業(株)
執行役員 岡崎製作所長
浜崎 憲 氏



教育随想

三菱自動車は、人材育成の基盤を三つの柱で構成しています。三菱グループ共通の根本理念である「三綱領」、当社固有の「ビジョン・ミッション」、日々の業務の行動指針である「MMC WAY」です。これらを教育の核として位置付け、体系的且つ実践的な育成を行っています。

「三綱領」は、当社の行動と判断の基盤です。事業の究極目的を社会貢献に置く「所期奉公」、公明正大で透明な行動を旨とする「処事光明」、国際的かつ長期的な視点で事業を展開する「立業貿易」。これらの理念は、日常の業務判断や対外活動の行動規範として、当社の「ビジョン・ミッション」と共に具体的な教育に落とし込まれており、その具体的な行動指針として「MMC WAY」があります。「MMC WAY」



「AY」は、お客様第一、プロとして自ら行動し枠を超えて挑戦すること、互いに敬意を払い協働すること等のキーワードで構成されており、これらは評価や育成の共通言語として、教育体系の設計や職場での実践に直結しています。

岡崎製作所ではこの三つの柱のもと、特にコミュニケーションを重視した人材育成に取り組んでいます。所長の私からのビデオメッセージやご家族への手紙を通じて思いを伝えるほか、月2回、6名程度の小グループ対話会を実施し、2Way（双方

向）コミュニケーションにより『岡崎製作所イズム』の浸透を図り、厳しさの中にも楽しさとやりがいのある職場づくりを目指しています。

岡崎製作所が掲げる「人と技術の融合による高品質なモノづくり」を実現するためには、変化を恐れず、従来のやり方に囚われない柔軟な考えをもつことが重要です。岡崎製作所イズムを現場に根付かせ、変化に立ち向かいながら未来のモノづくりを力強く牽引できる人材をこれからも育成し続けます。

（はまざき けん）



令和8年1月1日

誰もが尊重される社会をめざして

助産師

伏田 綾氏



包括的性教育を通して、「性に関する正しい知識と人を大切にする心」を届けたいと願いながら助産師として働く伏田さん。性暴力をなくし、誰もが尊重される社会を作りたいの思いが、お話から伝わってくる。

—伏田さんにとって、包括的性教育を伝える原動力は何ですか—

性暴力からすべての人を守りたいという願いが、私の原動力です。

包括的性教育とは、生殖や性行為に関する知識以外に、人権やジェンダー、多様性、性暴力の防止等、性に関する幅広い内容を教えるものです。自分のプライベートゾーンを触らせない、他者のプライベートゾーンを触らない等の正しい性教育を幼い頃から行うことで、自他を大切に

するスキルが身に付きます。これは性暴力の防止につながります。

以前、性暴力で妊娠、出産した、小学生の担当看護師になりました。まだ小学生なのに、彼女の人生は大きく変わってしまいました。彼女が退院する際「看護師さんについていい優しくしてもらったから、将来看護師になりたい」と言ってくれました。私は涙が止まりませんでした。しかし、当時の私は未熟で、「あなたは絶対に悪くない」と言っただけであげられませんでした。そのことを、今でも後悔しています。だから、性暴力の被害に遭った方に、「あなたは汚れていない、悪くない」と講座で伝えるようにしています。いつの日か、あの小学生にも届けばと願っています。

性暴力の被害に遭った方は、自分が汚れたと思う、自殺をしたり精神疾患を抱えたりする人が多くいます。一方で、性被害を受けた男性も多く存在します。そのような男性が声をあげにくいのが、今の世の中です。だから、女性だけでなく、苦しんでいる男性も多くいるのです。

—学校教育に関する取組を教えてください—

市内に限らず、多くの学校に出前授業で訪問しています。子供たちの発達段階に合わせて包括的性教育について話しています。先日は周りの人が自分に近づいても嫌だと思わない距離感や、お産劇にて性の知識と



気持ちに寄り添って

美合小学校

教諭 赤堀 大知

新年度が始まったある日、Aさんから「友達のこと困っている」との訴えがあった。Aさんは、自分の納得できない気持ちを繰り返し述べ、解決策を教師に委ねてきた。訴えの内容を詳しく聞き、Aさんにも非があるように感じた私は、「Aさんにも見直すところがあるのでは」と問いかけてしまった。すると、Aさんは「自分は何も悪くない」と言い、不満げにその場を離れていった。この関わりから、私は友人とのよりよい関わり方をAさんに身に付けてほしいと願い、Aさんの気持ちに耳を傾けることから始めた。

友人と揉めごとが起こるたびに「自分は悪くない」と繰り返すAさんの話に耳を傾け、「嫌な気持ちになっただけだね」と思いを受容した。そのうえで、「トラブルが起きない

ためにはどうしたらよかったのかな」と問いかけることを心がけた。

ある日、AさんはBさんとけんかをした。何があったのかと問いかけ、「Bさんの行動を正そうと注意したのに、その気持ちを理解してもらえなかったことが嫌だったんだね」と、Aさんの気持ちを受け止めた。Aさんに「どのような言い方で注意したの」と尋ねると、Aさんは「きちんと並べと、強い言い方で言ってしまった」と答えた。Aさんは、しばらく沈黙したあと、ぼつりと「余計な一言を言ってしまった」と言った。この日を境に、だんだんと自分の反省点を自分で言えるようになった。Aさんの気持ちを受け止め、何度も対話を重ねることで、Aさんは自分の行動をよりよくしようと考えられるようになってきた。

一学期のある日、Aさんを中心に複数の児童から給食を食べる際の机の配置を変えたいと提案があった。仲のよい子と同じグループで一緒に給食を食べたいとのことだった。教師に解決策を委ねがちだったAさんに、自分たちの力で問題を解決する経験をしてほしいと考えた。そこで、学級会の議題に給食を食べる際の机の配置を取り上げた。

学級会では「全員が好きな人と組めない」、「困る人が必ず出る」と反対意見が続いた。自分の意見が通ると思っていたAさんは、困っている

ように見えた。そこで、「みんなが納得できる場所はどこかな」と問いかけた。すると、Aさんは「みんなが円形になって給食を食べれば、楽しく給食も食べられるし、一人になる人もいないと思います」と提案をした。Aさんの意見に多くの児童が賛成し、実施されることが決まった。周囲の意見を聞き、周りの子の思いを重ね合わせて考えることができた瞬間だった。学級会後に「いろいろな立場の子のことを考えたいと考えを見つけたね」とAさんを褒めると、「自分の意見が正しいと思っていたけど、みんなが納得することが大事だと思った」と、笑顔を見せた。

それから、Aさんはよりよい学級にしていこうと、学級会で話し合いたい内容を記した議題提案用紙を持って来るようになった。一学期の最後には、「先生、学期末にみんなが楽しめるレクを企画したいけど、話し合う時間をください」と、意気込むAさんの姿に頼もしさを感じた。



へのインタビュー映像を準備することとで、地元商店への子供の追究を促した。そして、長く続く秘密を解明するための話し合いの場を設定した。子供たちは見学やインタビュー映像を基に、「商品」「サービス」「人」に関する根拠のある発言を続ける。

しかし、児童Bは、減少する地元商店の数に目を向け、「つぶれちゃうかも」と悲観的に捉えていた。そこで、A教諭は、「商店が長続きするための秘密は商品、人、サービスのどれかな」と問いかけた。子供たちは、長続きするための三つの視点を比較、検討し、熟考した上で「どれも人から始まっているよ」と発言した。A教諭がすかさず、「働く人は何のために工夫をしているのか」と問うと、子供は、「一人一人のお客さん」と答え、店側から消費者の立場へと思考が転換した。児童Bは「僕のおじいちゃんの店も、お客さんに寄り添っているから長続きをしているんだ」と振り返りに記述した。児童Bは、店主が顧客と対話をしながら、商品を提案する事実に触れ、個人商店の価値を見出した。単元の終末、「僕は、おじいちゃんの店をもっと人気店にしたい」と社会参画する姿があった。

「人」が創る社会を正確に捉え、地域の一員としてよりよい社会を目指し、課題解決のためよりよい方法を思考する。そんな授業を目指したい。

おかざき世界子ども美術博物館

～開館40周年 子供たちの創造力を育む美術館～



▲ふれあい広場大屋根の完成式典の様子

絵や彫刻をはじめとする展示物に足を止める子供たち。工作や粘土で作品作りをする親子。おかざき世界子ども美術博物館（以下、子美博）は、美術に親しむ人たちであふれている。

子美博は、子供たちに国際的な広い視野を与え、豊かな創造力を身に付けてもらうことを目的に建てられた、美術博物館と親子造形センターからなる参加体験型ミュージアムである。

子美博（美術鑑賞）は、百力国以上から子供の作品を集め、常設展示している。さらに、幼い頃から「本物」に触れ、豊かな感性を育むことができるよう、有名美術家の十代の頃の作品も収蔵し、展示紹介されている。そして、年に四回実施される企画展は、一貫して「子供が楽しめる」内容で考えられており、体を動かしたり、自分の頭で考えたりする部分を積極的に設けている。さまざまなアプローチで子供たちの心や創造力を刺激するものとなっており、毎回大盛況となっている。

親子造形センター（創作活動）は、子供たちの想像力と創造性を最大限に引き出す場所として、四つの体験教室が用意されている。専門の指導員が常駐しており、気軽に参加することができるほか、子供たちの「創りたい」という思いに応え、楽しく親子が交流できる場にもなっている。また、多くの小学校が造形教室として製作体験に訪れたり、教員が作品作りのポイントを学び、共有したりできる研鑽の場としても活用されている。

開館から四十年、子美博は「子供」に焦点を当てた展示や催しで、岡崎の美術文化を支え続けてきた。「リトルアーティスト展」や、中央総合公園に移る平成三十年までは「おかざきっ子展」が開かれるなど、岡崎の美術教育との結び付きは強い。これからも岡崎の子供たちの創造力、創作意欲を刺激する場所としてあることを願う。

おかざき世界子ども美術博物館40年の歩み

年	出来事
1981年	岡崎市議会で美術館構想発表
1985年	おかざき世界子ども美術博物館開館
1987年	富田勲作曲のテーマ曲発表
1992年	遊具『妖精の棲む浮かぶ島』完成
2020年	入館者500万人達成
2021年	『子どもたちのアール・ブリュット展』開始
2025年	開館40周年、ふれあい広場大屋根完成



▲ふれあい広場の大屋根

～ 美術鑑賞 ～

収蔵されている作品



▲岡崎の児童の作品



▲西ドイツの子供の作品



▲ロダンの作品



▲有名美術家の10代のころの作品

「考える人」
1880年に制作された
8作品のうちの1つ

子供に人気の企画展



▲スイッチあそび展 (R6)



▲何度も開かれている人気の企画展



▲ミッケ!のせかいであそぼう展 (R7)

～ 創作活動 ～



▲小学校 造形教室 (美合小)

【児童の感想】

指導員の方が、「粘土が厚すぎるから焼けないよ」と言ってくださったので、ちょうどよい厚さで作ることができた。たくさんの道具があって、いろんな種類の模様をつけることができたので、満足のいく作品になった。焼きあがってきた「はにわ」を見ると、一生懸命作ってよかったと思った。

【先生の感想】

専門の指導員の方が、子供たちの自由な発想を受け止め、それに合った作品になるように、丁寧に指導してくださった。

筆やへらの種類が豊富で、子供たちは熱心に作品作りを行っていた。授業でも事前の準備がどれだけ大切かが私の学びになった。



▶EBアート教室



▶絵画教室



▶粘土教室



▶工作教室

四つの体験教室



●教育最新情報

◆令和八年度全国学力・学習状況調査

調査の対象

小学六年生、中学三年生

調査事項

小学校は国語と算数、中学校は国語、数学、英語で行われる。本調査を行うことにより、児童生徒の学力や学習状況を把握分析して、教育施策の成果と課題に関する検証と改善を図るとともに、児童生徒に対する教育指導の充実や学習状況の改善等へとつなげていく。さらに、これらの取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立していく。

調査実施日

【国語・算数・数学】

令和八年四月二十三日(木)

【中学校英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」】

令和八年四月二十日(月)

二十三日(木)の期間内のいずれかに実施

【中学校英語「話すこと」】

令和八年四月二十四日(金)

か二十七日(月)、もしくは四月二十八日(火)～五月二十九日(金)の期間内のいずれかに実施

◆研究発表について

本年度、城南小学校、甲山中学校、大樹寺小学校の三校の市委嘱研究発表会において、岡崎市の教育に対する大きな成果を得ることができた。

来年度の研究発表予定校は、市委嘱校三校、自主発表校一校、附属学校三校である。

・市委嘱研究発表校

矢作南小学校

十月十四日(水)

南中学校

十月二十一日(水)

竜谷小学校

十一月十一日(水)

・自主研究発表校

竜海中学校

十月七日(水)

・附属学校

愛教大附属岡崎中学校

十月六日(火)

愛教大附属岡崎特別支援学校

十一月六日(金)

愛教大附属岡崎小学校

十一月十八日(水)

◆叙勲・各種表彰

長年の教育活動における功績が認められ、次の皆様が叙勲・表彰の栄に浴された。

瑞宝双光章 村上 信良

瑞宝双光章 加藤 明

瑞宝双光章 稲葉 浩之

瑞宝双光章 倉橋 裕

瑞宝双光章 長谷川四郎

瑞宝双光章 有我 亮介

瑞宝双光章 近藤 正義

瑞宝双光章 岡田 豊

瑞宝双光章 野田 光宏

瑞宝双光章 内田 義和

瑞宝双光章 犬塚 尊夫

瑞宝双光章 栗田万砂夫

県教育表彰 水野 昌孝

◆第四回あいち教育賞

今年の「あいち教育賞」では実践のすばらしさ、論文としての完成度の高さ等が評価され、岡崎市から最優秀賞が選出された。

実践を論文としてまとめる

ことは、手だての有効性を明らかにするとともに、自らの授業を振り返ることになる。

授業力向上につながる、教師にとって大切な研鑽である。

・最優秀賞

福岡小 杉本 智恵

「身近な環境に主体的に関わり、よりよい環境について考え、行動できる子供の育成

5年 総合的な学習の時間『守ろう！野鳥のすみ』

町生平／男川環境プロジェクト』の実践を通して」

◆第69回岡崎市小中学校書き初め展

岡崎市内全小中学校の各学級二点の代表作品(毛筆)と、小学校三年生以上の学年一点の代表作品(硬筆)、約二千点以上が展示される。

・日時

令和八年一月十七日(土)

午前十時～午後五時

一月十八日(日)

午前十時～午後三時三十分

場所

岡崎市美術館(岡崎市明大寺町茶園11-3)

※美術館以外に利用することが出来る駐車場

・岡崎市立竜海中学校

・岡崎市立岡崎盲学校

・サンフイレル岡崎

◆愛知万博メモリアル第18回愛知県市町村対抗駅伝競走大会

令和七年十二月六日(土)

に、愛・地球博記念公園にて愛知県市町村対抗駅伝が開催された。岡崎市は、強豪がひしめく中、【市の部】四連覇を成し遂げた。

第1区 中学生女子

竜南中 佐野伊桜里

第3区 小学生男子

緑丘小 副島 璃久

第4区 中学生男子

南中 尾田 祥太

第5区 小学生女子

矢作南小 楓 汐莉

(区間一位)



●表彰

◆第44回全国中学校駅伝大会

○女子の部

十位

竜南中

区間賞

第三区

安藤 美琴



○男子の部

十九位

福岡中

区間賞

第一区

坂井 俊太



◆第14回日本学校合奏コンクール2025ソロ&アンサンブルコンテスト

○アンサンブル部門

優秀賞

翔南中

小川 朱音・加藤 聖真

畔柳 帆望・上葛 紗那

西田 優依・前田 菜摘

○ソロ部門

優秀賞

翔南中 山口 葉穂

◆CBCこども音楽コンクール第60回中部日本決勝大会

○中学生 合奏第一部門

優秀賞 二位

城北中

優秀賞 三位

福岡中

○中学生 合唱部門

優良賞

竜海中

優良賞

矢作中

○小学生 重唱部門

最優秀賞

（文部科学大臣賞選考会出場）

井戸田穂成実・小川 澄

山中小

鈴木 琴音・成瀬 柑那

○小学生 合唱部門

最優秀賞

（文部科学大臣賞選考会出場）

優良賞

三島小

優良賞

六名小

◆第59回全国野生生物保護活動発表大会

日本鳥類保護連盟会長賞

生平小



◆第44回愛知県中学生バレーボール新人大会

○女子の部

3位

岡崎WEST

◆第66回動物愛護の作文コンテスト

○小学生の部

二等賞

六名小 田中 伶奈

◆第25回JQA地球環境世界児童画コンテスト

国内佳作

福岡中 川井 ゆ花

◆令和7年度愛知県中学生創造ものづくり教育フェア創造アイデアロボットコンテスト

○基礎部門

一位

翔南中 神田創一郎

○制御部門

一位

福岡中

二位

飯島章之亮・西郡 蓮

三位

小坂 陵介・大石 新

三位

長谷部裕来・大石 新

○応用部門

三位

葵中 窪田 暁人

○徳川家康公文コンクール

最優秀賞（徳川賞）

岡崎小 五年 西村美知佳

優秀賞（家康賞）

井田小 二年 海老澤柚華

岡崎小 四年 田代 樹

岡崎市教育委員会教育長賞

額田中 三年 鈴木 颯真

岡崎商工会議所会頭賞

井田小 六年 内藤 有紀

大樹寺貫主賞

大樹寺小 六年 鮫島 仁

龍城神社宮司賞

矢作南小 五年 高林 葵

歴史審査員特別奨励賞

井田小 六年 白内 琴菜

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

相談窓口	電話番号	相談受付日時	あいちこころのサポート相談（SNS）
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan
あいちこころのサポート相談（SNS）	右QRコード	月曜日～土曜日 20:00～24:00 日曜日 20:00～翌月曜日 8:00	
愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00	
あいちこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間	



旧校舎さよなら集会 (昭和47年)

写真提供：南中学校

写真は、校舎建て替え工事の開始にあたり行われた、「旧校舎さよなら集会」の一場面である。全校生徒が旧校舎の前に集まって、旧校舎への別れを告げている。

旧校舎は、昭和二十五年に南中学校が岡崎小学校内から戸崎町へと移転した際に建てられた。この集会では、校舎の壁面を看板で飾り、生徒たちは寂しさと二十二年間の感謝をもって旧校舎を見つめている。その後、仮設教室を経て、翌四十八年六月より、現在の校舎が使われている。

時代と共に、学びの環境は変わっていく。しかし、学び舎の形は変わっても、仲間と過ごした思い出や時間、各校で培ってきた学校文化が色褪せることはない。



・カ
ッ
ト
矢作北中
新美友紀乃



*星の教室
角川春樹事務所

高田 郁
¥1,600

心に残った一文

「学び」とは、誰にも奪われないものを自分の中に蓄える、ということなのか。

様々な理由で十分に義務教育を受けられなかった人が通う夜間中学。「ここで手に入れた文字は、もう誰も私から奪うことはできへんの」。識字クラスで学ぶ八十路前の生徒の切なる思いと、「学び」に対する渴望の言葉が、胸に突き刺さる。

次期学習指導要領改訂において、外国人児童生徒や長期欠席傾向の子供たちへの対応は、教育の多様性を尊重する重要な柱として位置付けられている。教育を受けることは、その人の人生に希望の灯をともしることだ。「学び」について、深く考えさせられる一冊である。

*生きる言葉
新潮社

俵 万智
¥940

*パイアから人生
小学館

夏井いつき
¥1,700

*図解 中学校道徳の授業デザイン
明治図書出版

山田 貞二
¥1,800

矢作西小学校 原田 真弓

本物に触れてほしい。子供たちのために展示の仕方や企画展を考える学芸員の想いに触れた。

子美博は、現代のニーズに合った美術館として進化している。一方で、開館当初から変わらない子供たちに寄り添う美術館としての思いは、世代を超え、時代が変わっても親から子へ、子から孫へと繋がっている。

どの世代の人も一人一人の人權が尊重される社会を目指したい。

伏田さんはこのように考えてみえる。性暴力に関する報道を見聞きするだけで胸が痛む。今こそ、私たちが包括的性教育を学び、子供たちに伝えていくべきだ。子供たちが笑顔で生活できる未来のために、私たちも学び続けていきたい。

ど ホ

ッ

睦 月



▲迎春の準備 (六名小)

つもる思い出話に花を咲かせる子供たち。正月は、普段会えない親せきと会えたり、家族とゆっくり話ができたりする絶好の機会である。

冬休みを終え、エネルギーを蓄えた子供たちは、どのような姿を見せてくれるだろうか。子供たちの頑張りを見れば、近くで見守り、支えられる教員でありたい。